

ババ様 66 歳の御降誕祭の御講話

神の恩寵を勝ち得る方法

ああ、ここに集いし善良で高潔な人々よ！
皆さんが互いへの愛情と心からの喜びで満たされますように！
皆さんが苦しみ悩むあらゆる人に憐れみ深くありますように！
皆さんが義にかなった家庭生活を送り、万人の手本となりますように！
皆さんがダルマと英知を実践することに常に懸命でありますように！
これは皆さん全員のための私の祝福の祈祷です。
これ以上、何を皆さんに言うことができるでしょう？

神の愛の具現たちよ！ 宇宙に存在する動くものはすべて、神から生じ、神に維持され、神に帰融します。創造、維持、解体の根本原因は、神です。

人は、欲のせいで生まれ、欲に生き、欲によって死にます。人の生涯は、欲すなわち思考に基づいています。人の行為は本人の思考に起因しています。応報は行為に起因しています。応報は行く先を定めます。要するに、人の運命は本人の思考によって決まるということです。

人は神聖意識を所有すべし

神の愛の具現たちよ！ 崇高な思考を育み、理想に適った生活を送り、最高の果報を得て、至高の目的地に到達するよう努めなさい。

人の一生は、本人の持っている諸性質と性格に基づいています。自分の感覚的な衝動にではなく、アートマ ダルマに応じて行動する人が、本当の人間です。アートマ ダルマこそが人間の真のダルマです。感覚の指示に応じて行動するのは動物の習性です。人間は、動物から動物性の君主（パシュパティすなわちシヴァ神）へと向上すべきです。人間が持つべきものはイーシュワラの思念（神の意識）であり、プラクリティの思念（動物的な本能）ではありません。

自然界のすべては神の具現であるということも認識しているべきです。創造世界は神の意識の第一の象徴です。創造世界はプラクリティ（自然）と呼ばれています。自然の産物である人間は、誰もが自らの神性を意識し、創造世界のその神聖な基盤を公言すべきです。人間の生はこの上なく神聖です。人間としての生は貴重で神聖なのですから、それに適った生き方をすべきです。人間は創造世界の一部であり、人間の内にある神性は何か異質のものではありません。アヴァター（神の化身）は、人間に本来備わっている神性を身をもって示すために、時おり降臨するのです。

神霊の化身たちよ！ 神は何か別個ものとして存在しているわけではありません。あなた方全員が神の具現です。「神は万物に内在している」（イーシュワラ サルヴァ ブーター ナーム）、「万物は神で満ちている」（イーシャーヴァースヤム イダム サルヴァム）、「万物は神である」（ヴァースデーヴァスサルヴァム）。人々は、これらの深遠で神聖な言明を忘れ、取るに足らない浮世の喜びを追い求めて人生を無駄にしています。

霊性は生活のあらゆる側面に存在する

霊性（精神性、スピリチュアリティ）は物質とは別のものであり、物質世界と霊性は何の結び付きもないと考えるのは愚の骨頂です。霊性は、生活のあらゆる側面——社会的、政治的、経済的、道徳的な側面——を通じて一つの底流のように流れています。現代では、この基本的な真実が忘れられています。人々は、一過性のもの、短命のもの、実体のないものに信頼を寄せています。

世界では、すべてのものが常に変化し続けています。このいつも変化し続けている世界は、変化することのない神を基盤としています。その神聖な基盤（アーダーラ）を理解したとき、初めて人は、それを基盤としているものを体験することから至福を引き出すことができます。どんな行為をしていても、どんな道を追いかけていても、人は神を意識しているべきです。現代人は、権力と地位と金銭を求め、徳を求めません。善性を失った権力と地位に価値はありません。人間に最も必要なものは徳です。人が神を憶念すべきなのは、この精神においてなのです。

自然（プラクリティ）を見下してはなりません。自然は、利己的な視点から見られると歪んだ姿をまとい、霊的な視点から見られると神聖な様相を示します。自然の役割におけるこの違いは、人間の態度に端を発するものです。

一切万有は真理（サティヤ、真実）から生じました。真理は神の姿です。一切万有は真理を土台としています。「真理よりも偉大なダルマはない」（サッティヤンナースティ パロー ダルマハ）のです。

一切万有は真理から創られた
そして、創造世界の一切は真理の中に埋め込まれている
真理が輝いていない場所はない
これぞ至高の真理であると覚りなさい

バーラタ人は自らの神聖な相続財産を忘れている

誰にとっても一番大切なものは善良さです。その人の裕福さや知識や地位がどれほどのものであったとしても、一番重要な特質はその人の性格です。たとえたくさんの善い素質を持っていたとしても、その素質の花を咲かせるのは神への信愛です。昔のバーラタ人（イ

ンド人)は、この真実を認識しているという評価を得ていました。バーラタ人が自分たちの神聖な文化の伝承を忘れているということよりも酷い不幸があるのでしょうか？

バーラタ人の義務は他者に奉仕すること

この上なく神聖なバーラタの土地において、最高の富は堪忍寛容
あらゆる礼拝の儀式の形の中で、最も厳格な儀式は真実と正直を貫くこと
「ここは自分の母国なのだ」と思うこと以上に高く賞賛されることがあるだろうか？

名誉は命より尊いという信条を捨て、人々は異国の習慣の後追いをし、わけのわからない自由の概念にしがみつき、自分たちの強さの本当の源を忘れています。それはまるで、自分の大変な強さに気づいていない象のようなものです。

自分の強さに頼らずに他人の強さに頼るのは危ういことです。バーラタ文化のすべては、自分自身に具わっている強さを信用すること、自分の神我を信頼することに基づいています。あらゆる偉業の根本を成しているのは自信です。インドがあらゆる類の問題の餌食になっているのは、自信を失ったせいです。

神霊の化身たちよ！ あなた方は神の化身であるというのに自分自身への信頼を失うのは、弱さの印です。自分の本性を知りなさい。そうすれば、力と才能が現れて、あなた方の歓喜の源となるでしょう。自信が必要不可欠なのは、あらゆる繁栄と偉業の源は自信であるからです。

バーラタ人の義務は他人に奉仕すること

現代の世界は、不和、無秩序、不満に陥っています。この危機において、あなた方の義務とは何でしょう？ あなた方はこの無秩序を取り除く力を持っていますか？ このような状況と戦うには一人では力足らずだ、などという考えに余地を与えてはなりません。もし、この危機に立ち向かうためにインド人一人ひとりが自信を持って前に進み出るなら、この国はごく短期間に無秩序から救われることができます。自信を失っているせいで、人々は前に進み出ることができずにいるのです。

何にもまして、他人に奉仕することを一人ひとりが誓わなければなりません。誰もが神を起源としています。もし他人への愛情を持つことができないなら、その人は人間をやめたということです。誰もがこうした基盤の上で行動し、すべての人に対して愛を示し、理想にかなった生活を送るべきです。人は自分を弱くて低能な生き物と見なすべきではありません。

では、現代の私たちの義務とは何なのでしょう？ 政府は村にさまざまな便宜的供与を図ろうと努めています。ですが、自分の意向を公言することと、それを実現させることは別物です。言うは易く行うは難しです。当局も指導者たちも、村の惨状など心配しません。

村人たちも同様に無関心です。バーラタには資源がないのではありません。バーラタはあらゆる面で非常に恵まれています。もしそうでなかったら、これほど多くの侵入者を外から引き寄せることはなかったでしょう。

今日、バーラタ人は母国を貧しい国と見なし、自らその地位を貶めています。これだけでは大きな危機にはなりません。それよりも危険なのは、冷笑的な態度——「アヴィシュワサ」〔不信、信仰の欠如〕——が、はびこりはじめることです。人々の間にある悲観主義が健全な楽天主義へと変わるとき、初めて国家は前進するのです。逆行的な動きは控えなければなりません。物質的な繁栄は一時的なものであり、重要ではありません。真の永続する豊かさは、優れた性質と道徳性にあります。獲得しなければならないのは、こういった意味での豊かさです。

貧しい村人たちのためのプッタパルティの新しい病院

関係当局、地域社会、そして個々人に対して手本を示す目的で、スワミは大小に関わらず、さまざまな分野における活動を手掛けています。このプッタパルティという小村は、かろうじて800人の人口があるかという程度のものでした。そのような村に大学を、などという構想は、夢のような話でした。さらに驚くような現象は、そんな村の近くに空港が建設されたことです。このようなものは県庁所在地のある市でも見られません。プッタパルティは、世界中の人々の注目の的となりました。何にもまして、あなた方は、高度に洗練された超近代的な病院が、どうしてよく発達した大都市ではなく、このような田舎に設立されたかを考えてみるべきです。裕福な人はどこへでも行くことができ、豊かな財力によって医療援助を受けることができます。けれど、田舎の貧しい人たちは、治療を受けるために村から遠く離れた所まで行くことはできません。この病院は、そのような貧しい人々のために建てられたのです。私は、医師たちに、心臓病を患っているこの付近の村人たちを診察するようにと言いました。

今日は、一つおめでたい知らせがなされなければなりません。我々の国の首相によって病院の落成式が行われてから15分も経たないうちに、最初の外科手術が始まりました。3時間の内に4つの手術が行われました。その1つは、とても複雑な手術でした。手術はすべて首尾よく行われ、患者たちは皆順調に回復しています。

この病院は村人たちに手を差し伸べる

あなた方は、どのようにしてこの病院が出来上がったのかを知っておくべきです。ラーセン アンド トゥブロー社 (Larsen & Toubro) は、インド国内外において大規模な建設事業で知られています。しかし、この病院の建設中に見られたような、作業員たちのかくまでの熱意と情熱は、ここ以外のどこでも見られませんでした。最も小柄な作業員ですら、喜んで元気に10人分の働きをしてくれました。作業員たちは大きな信愛をもって働きました。

病院の作業は私がコダイカーナルから帰った5月に始まりました。5月から11月までの6か月で、普通なら5年はかかるであろう仕事が成し遂げられたのです。これは非常に大がかりなプロジェクトです。それは1000年は人々のためになるようにと造られました。

この病院は、さまざまな病気で苦しんでいる村人たちに救いの手を差し伸べるために造られました。そうは言っても、村人たちと都会の人たちとの間には、いかなる差別も設けられません。病気は村人たちだけを襲うわけではありません。縄張り意識による区別もありません。同じ様に、救いの手を差し伸べる相手に区別はありません。

この世で何を成し遂げるにしても、健全な肉体は必要不可欠です。肉体は、ダルマの遂行のために第一に必要とされるものですから、健康でなければなりません。人生の4つの目標である、ダルマ、富（アルタ）、欲（カーマ）、解脱（モークシャ）を実現させるためにも、健康は不可欠です。どんな目的を果たすにも基本的に健康が重要であることを考慮して、スワミはこのような医療機関を世に送り出したのです。

しかし、健康な体を持つことの目的とは何ですか？ 健康な体は健全な活動のために役立つべきです。残念ながら、世界中の人々が、ダルマと解脱のことは忘れて、富と欲の追及だけに夢中になっています。これは完全に間違っています。人は4つの目標をどれも等しく追及し、人生を神聖なものとするべきです。

体を善い目的のために役立つには、健康が必要不可欠です。悪い目的のために使われる体が何の助けになりますか？

五元素を通じて体験される神性

神の愛の具現たちよ！ 全宇宙を至高者の具現として尊びなさい。この宇宙の創造者は、神の富の四つの形態（アシュタアイシュワルヤ）の所有者である主です。人間にとって最も命にかかわる必需品は水です。水は命を支えています。地球の表面の四分の三は水におおわれています。ウパニシャッドの中で、水はジーヴァム（生命の力）であると述べられています。このゆえに、主の第一の姿は水です。

人間にとって二番目の必需品は火（アグニ）です。火はすべての人の胃の中に消化の火（ジャタラアグニ）として存在しています。この消化の火がなければ、人は食べたものを消化して食物から体を維持するエネルギーを受け取ることができなくなります。胃の7つの分泌物はどれも消化の火によってもたらされます。体内の血液、筋肉、骨等々は生命に必要なエキス（ラサ）によって維持されています。ですから、主はアンギラサ、すなわち、体の各部（アング）にエキス（ラサ）となって存在している者、と呼ばれているのです。アンギラサは火の姿をとります。

三番目の必需品は大地です。誕生、成長、解体という過程は大地の上で起こります。人

間が必要とする食物はどれも大地から生じます。大地は人間にとって喜びの源なので、大地も同様に神の具現です。

大気は唯一性の真実を宣言している

四番目の必需品は空気です。空気と命は密接に結び付いています。どの人も呼吸に空気を使います。人の命は吸気（ソー）と呼気（ハム）に基づいています。呼吸において、この「ソーハム」のプロセスが中断なく続いています。サンスクリット語で「ソー」は「彼」、「アハム（ハム）」は「私」を意味します。「ソーハム」は「私は彼である」という真理を示しています。この「彼」とは誰でしょう？ 神です。このように、空気は唯一性の真理を宣言しています。呼吸において、人は毎日21600回、息を吸っては吐いています。空気がなかったら命は絶えます。ですから、神の四番目の具現は空気です。

五番目の必需品は空間（アーカーシャ）です。空間は5つの元素すべての基盤です。音は空間の姿です。音はブラフマン（絶対者）の姿でもあります。音はすべてに遍満しています。空間（アーカーシャ）はどこにあるかと尋ねれば、人は大空を指差します。しかし、そうではありません。万物には空間が入り込んでいます。音（あるいは音波）のある所には空間があります。空間はすべてを包み込み、あらゆる所に存在しています。ですから、空間は神の具現です。

太陽は知性の主

六番目の必需品は太陽です。太陽は火の権化です。火はどうやって生じますか？ 太陽の水素がヘリウムに変換されると、熱が生じます。科学もそれを裏づけています。その過程に8つのエネルギーの形が見られます。それは、運動エネルギー（ヤントラ シャクティ）、熱エネルギー（ウシナ シャクティ）、光（カーンティ シャクティ）、磁器エネルギー（ガナ シャクティ）、電気エネルギー（ヴィディユト シャクティ）、化学エネルギー（ラサ シャクティ）、原子エネルギー（アヌ シャクティ）です。太陽は毎秒、何十億単位でエネルギーを失っていると科学者は計算しています。それでも、太陽はこの先、何百万年もエネルギーの源であり続けるでしょう。太陽は理智（ブッディ）を司る神です。太陽は理性の主であり、人間の理智を輝かせます。ですから、太陽も神の具現です。

七番目の必需品は月です。月はマインド（心、思考、マナス）を司る神です。高尚な考えはマインドを通じてこそ経験されます。世界はマインドの姿の投影です。マインドがなければ世界は始まりません。マインドのスピードは匹敵するものがないほどです。たとえば、あなた方はデリーやハイダラーバードからここにやって来たかもしれませんが、マインドは一瞬であなただけをどこにでも連れて行くことができます。思考のスピードは光よりも速いのです。

八番目の必需品は行動力（カルマ シャクティ）です。行為（カルマ）も神のまもった姿です。人は行為から生まれ、行為によって維持され、行為に終わります。行為は人の命

を支える呼吸です。古代人は、行為はヤグニヤ（供犠）であると述べました。「行為すなわち供犠はヴィシュヌ神なり」（ヤグニョー ヴィシュヌフ）。宇宙はヴィシュヌ神の具現です。

以上からすると、創造世界の一切は、8つの神の力の所有者である至高神の顕れであると見なされるべきなのです。

人間は五元素を誤用乱用している

現代人は宇宙を形成している五元素を正しく使っていません。その結果として、人は無数の困難にさいなまれています。五元素から引き出すべき恩恵（音、感触、光、味、香りという形をとったもの）が正しく享受されていません。それらは誤用されています。人間が神の恵みを剥奪され、神の不機嫌をこうむっているのは、神から与えられた五元素と能力を人間が乱用しているからです。五元素も人間に敵対するようになっています。人間が五元素を侮辱していることに対して、五元素も人間を嫌悪しています。その結果、人に聞こえてくるのはスキャンダルやゴシップという耳障りな音です。それらは人が出すべき音でしょうか？

人は高尚で永続的な神の性質を現すべきです。不幸なことに、人の見方はすっかり汚れています。人は悪い思考でいっぱいです。そのせいで、人が見るものは人に敵対しているのです。

人間の聴力を調べてみれば何がわかるでしょう？ 人はいつも、ありとあらゆるスキャンダラスなゴシップを聞いており、主への甘美なる賞賛には耳を傾けません。そのようにして耳が誤用されていると、悪いことを聞くことによって心も汚染されます。

人が吸う空気も汚染されています。環境全体が汚染されています。人が食べる食物も汚染されています。

人類が今日体験している諸問題やさまざまな不安のすべての根底に何があるかを追求してみれば、人間が五元素を乱用していることに原因があることがわかるでしょう。ですから、善いものを見、善いことを聞き、善くあらねばなりません。人々がこのように振る舞えば、五元素は人々に恩恵を降り注ぐでしょう。五元素の恩寵を確保することができたとき、初めて人は神の恩寵を体験することができます。私たちに養い、維持してくれている五元素を誤用しているなら、どうやって五元素の恩寵を得ることなどできるでしょうか？

教育の進歩に関する戯画

これは、世の中がどのような教育の進歩をなしたかというものです。

食事を与えてくれる手に咬みつきの、知識を与えてくれる教師をののしる
これが現代の教育の「進歩」

人々は、よい生活、地位、富を求めるが、よい性質は求めない
富が極めて重要なものになり、正義は薄れてしまった
これが現代の教育の「進歩」

人格と道徳は本の中だけに限られ、心はすっかり汚されている
行いは、すべて利己心に基づいたもの
これが現代の教育の「進歩」

これが本当の「進歩」だと言えますか？ これらは人が学ぶべきものですか？ 今、学ばれているものはすべて、ハートを汚すのに役立つだけです。教育は利己心と私利を駆り立てるだけのものになっています。学ぶべきことは、いかにして他の人たちの助けになるか、そして、いかにして神我を顕現させかです。教育は人に万物が一つであることを気づかせるべきです。私は、どこを向いても、本当に教養のある人を見つけることができません。どの人も表面的には教養があるように見えます。多くの人が本を読みますが、単なる本の知識は教養ではありません。人を教養ある人にするのは学位ではありません。英知と善い性質に欠けているなら、教育に意味はありません。

人間としての生を神聖にする方法

教育は、善良な人生を送るためのものであるべきで、生計を立てるためのものであってはなりません。科学者から水の化学的構造を学ぶことは知識の一種であり、その知識は職を探すのを助けてくれるかもしれません。その一方で、すべての人が水の恩恵を分かち合うことを可能にする水の正しい使い方は、魂の知識です。この高次の知識は人生を高めて意義あるものにします。世俗の知識と魂の知識が結ばれば、人としての生は神聖なものとなります。

カンナダ語の諺に、「水の飾りは蓮。町の飾りは家庭。海の飾りは波。空の飾りは月。人の命の飾りは美德」というものがあります。善良な性質が備わっていなければ、他のどんな飾りも価値はありません。神によって創られた美を超える飾りはありません。尊ばれるべきはその美です。美は神です。どうしてそれをさらに美しくしようと努めるのでしょうか？ あなたに自然の美が備わっているとき、どうして人工的な化粧品を追い求めるのでしょうか？ 真の美しさは善良な性質にあります。

神の愛の具現たちよ！ 今日、私たちは体の大切さを認識しなければなりません。体を正しく使うためには、善良な諸性質を備えていることが必要です。健康な体と善良な性質を持っていれば、理想的な人生を送ることができます。限りなく貴重な人間としての生が善い思考と善い行いで満たされるなら、国家は繁栄します。

「私のもの」とか、「私の誰々」という思考の一切を慎んで、毎日あなたが起きている時間の一瞬一瞬を、他の人々の幸福を思考することで満たしなさい。万人が幸福であれば、

あなたも幸福でいることができます。社会の幸福を促進しなさい。あなたの幸福は社会の幸福にかかっています。

「私にとっては、すべての人が同じです」

自分の敵すらも愛しなさい。それがサイの理想です。実際、私には世界中に一人も嫌いな人はいません。私を嫌っている人や私に反対している人たちはいるでしょう。けれども、私にはそのような人たちへの反感はありません。私にとっては、すべての人が同じです。この平等心のひとかけらでも育てる努力をしなさい。

一部の帰依者たちは、「神は慈愛の海であるとか、慈悲の権化であるとか言われているけれども、神は私の苦悩を何一つ和らげてくれない」と言って自分の身の上を嘆きます。主はまさしく愛と真実の権化であり、慈愛の海です。しかし、あなた方はどの程度、神の教えを実践していますか？ それを自分に問いなさい。あなた方は、正しい行いをしていないのに、神の恩寵だけは求めます。あなたが神の教えをいくつかでも実践に移したときに、初めて神の恩寵は注がれるのです。

今日、バガヴァッド ギターはさまざまに広められています。しかし、ギターの教えをただの一つでも実践している人は、何人いるのでしょうか？ 人々は大志を抱くことにかけては英雄（ヒーロー、Hero）ですが、実践においては零（ゼーロー、Zero）です。同様に、人々はラーマヤナの物語や、ラーマが父親から与えられた誓約をどのようにして守ったかという話を雄弁に語ります。けれども、自分の親の言いつけを守る人は、いったい何人いるのでしょうか？ ラーマヤナやバーガヴァタやギターを、儀式のときに読み上げるための聖典であると見なしてはなりません。これらは私たちがその教えを実践すべき経典です。このことは、これら以外の、聖書、コーラン（クルアーン）、グラントサヘブ等の神聖な書物にも当てはまることです。

知識の追求に一生をかける人たちもいます。彼らはいつになったら自分が学んだことを実践に移すことを始めるのでしょうか？

1991年11月23日
ヴィッディヤーギリ スタジアムにて
Sathya Sai Speaks Vol.24 C28